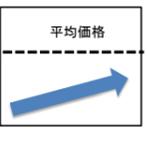
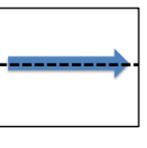
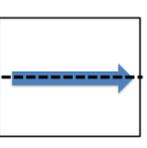
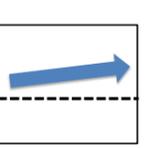
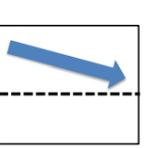
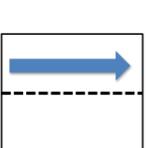
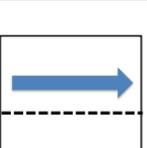
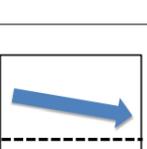
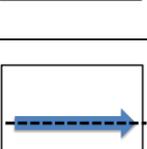
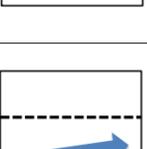
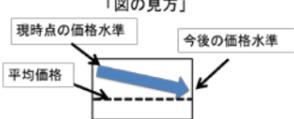


野菜の需給・価格動向レポート(平成28年3月7日版)

1 主要野菜の生産出荷状況

・レポートの読み方については、注意書きを参照してください。

種類	2月の価格情報 (参考) 保証基準額の算定の基となる平均価格	指定野菜の関東・近畿ブロック旬別平均販売価額			3月 (参考) 保証基準額の算定の基となる平均価格	入荷量及び主要産地	生育及び価格の3月中旬までの見通し	
		上旬	中旬	下旬				
		平均価格	平均価格	平均価格				
葉茎菜類	キャベツ	96.86	63	64	61	96.86	 <p>・愛知産は、現在平年並みの出荷となっているが、今後はこれまでの前進出荷の影響から、平年よりやや少なめの出荷の見込み。千葉産は、天候に恵まれ生育は順調なことから、潤沢な出荷となっており、今後も引き続き平年よりやや多めの出荷の見込み。神奈川産は、これまでの前進出荷の影響から、現在は平年よりやや少なめの出荷となっているが、今後は後続の作型の出荷があることから、平年並みの出荷の見込み。 ・千葉産及び神奈川産の出荷が平年よりやや多めもしくは平年並みと見込まれるものの、愛知産の出荷が平年よりやや少なめと見込まれることから、価格は平年に近づくものの、現在平年を大幅に下回っていることから、引き続き平年を下回って推移する見込み。</p>	
		92.10	58	61	57	92.10		
	たまねぎ	76.15	74	80	81	76.15	 <p>・北海道産は、貯蔵物を計画的に出荷しており、今後も引き続き平年よりやや多めと見込まれる。静岡産は、平年並みの出荷でピークを迎えており、生育期の天候に恵まれ生育は順調であることから、引き続き平年並みの出荷の見込み。 ・北海道産の出荷が平年よりやや多めと見込まれるものの、静岡産の出荷が平年並みと見込まれることから、価格は引き続き平年並みに推移する見込み。</p>	
		76.15	71	74	77	76.15		
	ねぎ (関東は白ねぎ、近畿は青ねぎ)	252.99	256	230	246	252.99	 <p>・千葉産は、生育は順調で、これまでの気温高に伴い肥大も進み、太物中心の出荷となっており、引き続き平年並みの出荷の見込み。埼玉産は、病害虫の被害が見られ、細物中心であるものの、引き続き平年並みの出荷の見込み。茨城産は、現在は平年並みの出荷となっているが、太りも良く生育は順調であることに加え、ほ場の残量も多いことから、今後は平年よりやや多めの出荷の見込み。 ・茨城産の出荷が平年よりやや多めと見込まれるものの、千葉産及び埼玉産の出荷が平年並みと見込まれることから、価格は引き続き平年並みに推移する見込み。</p>	
		473.04	550	540	563	473.04		
	はくさい	64.18	54	48	74	64.18	 <p>・茨城産は、これまでの前進出荷の影響に加え、気温高と降雨により品質の低下が見られることから、今後減少する見込みで、引き続き平年より少なめの出荷の見込み。兵庫産は、これまでの前進出荷の影響により引き続き平年よりやや少なめの出荷の見込み。群馬産は、出荷の終盤を迎え3月上旬に切り上がる予定。 ・茨城産及び兵庫産の出荷が平年より少なめと見込まれることから、平年を上回っている価格は、上げ気配が強まり引き続き平年を上回って推移する見込み。</p>	
		68.70	67	69	89	68.70		
	ほうれんそう	338.43	613	472	459	338.43	 <p>・茨城産は、これまでの前進出荷の影響に加え、最近の冷え込みから、現在平年よりやや少なめの出荷となっているが、今後の気温の上昇とともに、平年並みの出荷の見込み。群馬産は、これまでの前進出荷の影響から、現在平年よりやや少なめの出荷であるが、今後は春作の生育が順調であることから、平年並みの出荷の見込み。埼玉産は、病害の発生は見られるものの、一般的には生育は順調なことから、引き続き平年並みの出荷の見込み。 ・茨城産、群馬産及び埼玉産の出荷が平年並みと見込まれることから、価格は平年に近づくものの、現在平年を大幅に上回っていることから、引き続き平年を上回って推移する見込み。</p>	
		375.38	604	541	538	375.38		
	レタス (結球)	233.85	258	260	261	189.66	 <p>・茨城産は、気温高に加え、適度な降雨もあったことから肥大が進み大玉傾向であることから、今後も平年よりやや多めの出荷の見込み。静岡産は、定植時の天候不順で十分な植え付けが出来なかったほ場からの出荷であることから、引き続き平年よりやや少なめの出荷の見込み。香川産は、これまでの前進出荷の影響に加え、最近の気温差が激しいため病害の発生が見られ、小玉傾向となっていることから、引き続き平年よりやや少なめの出荷の見込み。 ・茨城産の出荷が平年よりやや多めと見込まれるものの、静岡産及び香川産の出荷が平年よりやや少なめと見込まれることから、現在平年を上回っている価格は、引き続き平年を上回って推移する見込み。</p>	
		226.75	264	278	283	193.43		
果菜類	きゅうり	370.98	490	386	377	266.63	 <p>・群馬産は、生育は順調で気温の上昇も見込まれることから、引き続き平年並みの出荷の見込み。宮崎産は、急激な気温の上昇と日照量の増加による成り疲れの影響から、今後は平年よりやや少なめの出荷の見込み。千葉産は、天候が周期的に変わる状況で出荷が安定しないことから、今後は平年よりやや少なめの出荷の見込み。 ・群馬産の出荷が平年並みと見込まれるものの、宮崎産及び千葉産の出荷が平年よりやや少なめと見込まれることから、現在平年を大幅に上回っている価格は、引き続き平年を上回って推移する見込み。</p>	
		350.33	491	370	361	254.91		
	トマト (大玉)	349.23	491	387	383	356.77	 <p>・熊本産は、12月下旬から1月上旬の曇天により、花落ちが目立った段からの出荷となっていることから、引き続き平年よりやや少なめの出荷の見込み。栃木産は、生育が順調で若干前進傾向となっていることから、引き続き平年よりやや多めの出荷の見込み。愛知産は、これまでの前進出荷の影響と作りの切り替え時期により、現在平年よりやや少なめの出荷となっている。今後は徐々に回復するものの、引き続き平年よりやや少なめの出荷の見込み。 ・栃木産の出荷が平年よりやや多めと見込まれるものの、熊本産及び愛知産の出荷が平年よりやや少なめと見込まれることから、平年を上回っている価格は、引き続き平年を上回って推移する見込み。</p>	
		326.61	471	362	364	337.87		
	なす	389.03	519	437	427	347.77	 <p>・高知産は、12月の曇天などの影響から、現在平年よりやや少なめの出荷となっているが、生育は概ね順調で日照時間の増加が見込まれることから、今後は平年並みの出荷の見込み。福岡産は、最近の天候に恵まれ生育は順調なことから、出荷は徐々に回復してきたものの、引き続き平年よりやや少なめの出荷の見込み。 ・福岡産の出荷が平年よりやや少なめと見込まれるものの、高知産の出荷が平年並みに回復すると見込まれることから、現在平年を上回っている価格は、平年に近づくものの、引き続き平年を上回って推移する見込み。</p>	
		397.74	509	417	407	330.95		
	ピーマン	578.80	802	794	696	578.80	 <p>・茨城産は、天候に恵まれ生育は順調で着果状態も良好であることから、引き続き平年よりやや多めの出荷の見込み。宮崎産は、現在平年よりやや少なめの出荷であるが、最近の天候も安定し徐々に回復が見られ、生育は順調であることから、平年並みの出荷の見込み。高知産は、11月中旬から12月の天候不順の影響から、現在平年よりやや少なめの出荷となっている。今後は日照時間の増加が見込まれるものの、引き続き平年よりやや少なめの出荷の見込み。 ・高知産の出荷が平年よりやや少なめと見込まれるものの、茨城産及び宮崎産の出荷が平年よりやや多めもしくは平年並みと見込まれることから、現在平年を上回っている価格は平年に近づくものの、引き続き平年を上回って推移する見込み。</p>	
		565.30	748	739	646	565.30		
	根菜類	だいこん	79.03	80	67	80	79.03	 <p>・神奈川産は、特段の病害もなく生育は順調なことから、引き続き平年並みの出荷の見込み。千葉産は、トンネル物の出荷が主体となり、天候に恵まれ生育は順調なことから、引き続き平年よりやや多めの出荷の見込み。 ・千葉産の出荷が平年よりやや多めと見込まれるものの、神奈川産の出荷が平年並みと見込まれることから、現在平年並みの価格は、引き続き平年並みに推移する見込み。</p>
			80.47	66	57	72	80.47	
		にんじん	111.16	87	83	83	111.16	 <p>・千葉産は、現在は平年よりやや多めの出荷となっているが、今後は出荷の終盤を迎え、減少傾向となることから、平年並みの出荷の見込み。徳島産は、現在はまだ少量の出荷であるが、天候に恵まれ生育は順調であることから、平年並みの出荷の見込み。 ・千葉産及び徳島産の出荷が平年並みと見込まれることから、価格は平年に近づくものの、現在平年を大幅に下回っていることから、引き続き平年を下回って推移する見込み。</p>
	109.97		91	82	83	109.97		



種類	(参考) 保証基準額の算定の基となる平均価格	2月の価格情報			(参考) 保証基準額の算定の基となる平均価格	入荷量及び主要産地	生育及び価格の3月中旬までの見通し
		指定野菜の関東・近畿ブロック別平均販売価格	上旬	中旬			
いも類	さといも	228.85	258 (113%)	250 (109%)	273 (119%)	228.85	<p>・埼玉産は、貯蔵物を計画的に出荷しており、引き続き平年並みの出荷の見込み。千葉産も、貯蔵物からの出荷で、現在は平年並みの出荷となっているが、今後は出荷の終盤を迎え残量が少ないことから、平年よりやや少なめの出荷の見込み。 ・埼玉産の出荷が平年並みと見込まれるものの、千葉産の出荷が平年よりやや少なめと見込まれることから、価格は、引き続き平年を上回って推移する見込み。</p>
		219.65	374 (170%)	364 (166%)	426 (194%)	219.65	
	ばれいしょ	96.99	146 (151%)	164 (169%)	174 (179%)	96.99	<p>・北海道産は、貯蔵物を計画的に出荷しているが、雪による輸送の乱れもないことから、引き続き平年並みの出荷の見込み。鹿児島産は、降雨による掘り取り作業の遅れに加え、生育期の天候不順や寒波などの影響から小玉傾向となっていることから、引き続き平年よりやや少なめの出荷の見込み。 ・北海道産の出荷が平年並みと見込まれるものの、鹿児島産の出荷が平年よりやや少なめと見込まれることから、現在平年を大幅に上回っている価格は、引き続き平年を上回って推移する見込み。</p>
96.99		134 (138%)	149 (154%)	158 (163%)	96.99		

注：1 平均価格は、過去6年間（平成20～25年）の関東及び近畿ブロックの中央卸売市場の各指定野菜の卸売価格を物価指数で修正した価格の平均（消費税は除く）で、保証基準額の算定の基となる価格。  
2 旬別平均販売価格の赤字は平均価格を150%以上回るもの、背景ありは保証基準額（平均価格の90%）を下回るもの（消費税は除く）であるが、必ずしも事業が発動するとは限らないため、あくまで参考である。  
3 単位は円/kg、上段は関東、下段は近畿ブロック。  
4 入荷量は、東京都及び大阪市中央卸売市場の過去5年平均の数値である。  
5 主産地は、関東農政局及び近畿農政局「野菜の入荷量と価格の見通し」による。東京都及び大阪市中央卸売市場への出荷の多い県名。（ ）内は入荷シェアであり、関東は本年見込、近畿は前年実績。  
6 コメントは、都道府県、出荷団体、都道府県野菜価格安定法人、卸売会社等からの聴き取りをもとに機構が作成したもの。  
7 平成25年8月20日版より、平均価格と旬別平均販売価格を一部の品目につき細分化し、ねぎについては関東は白ねぎ、近畿は青ねぎ、レタスについてはレタス（結球）、トマトについてはトマト（大玉）の数値を用いている。

種類	(参考) 過去5年平均価格	2月の価格情報			(参考) 過去5年平均価格	入荷量及び主要産地	生育及び価格の3月中旬までの見通し
		東京・大阪市場の旬別価格	上旬	中旬			
洋菜類	ブロッコリー	332.22	474 (143%)	461 (139%)	459 (138%)	275.26	<p>・愛知産は、作の切り替え時期で、これまでの前進出荷の影響から後続の作型との間に端境となっていることから、引き続き平年より少なめの出荷の見込み。香川産は、これまでの前進出荷の影響により現在平年よりやや少なめの出荷で、今後は徐々に回復が見込まれるものの、引き続き平年よりやや少なめの出荷の見込み。長崎産は、これまでの前進出荷の影響に伴い、現在平年よりやや少なめの出荷となっているが、今後は生育は順調で徐々に増加が見込まれることから、平年並みの出荷の見込み。 ・長崎産の出荷が平年並みと見込まれるものの、愛知産及び香川産の出荷が平年よりやや少なめと見込まれることから、現在平年を上回っている価格は、引き続き平年を上回って推移する見込み。</p>
		350.96	491 (140%)	505 (144%)	495 (141%)	302.05	
根菜類	かぶ	139.51	155 (111%)	151 (108%)	153 (110%)	132.64	<p>・千葉産は、現在平年並みの出荷となっているが、今後は春かぶの出荷が開始され増傾向が見込まれるものの、引き続き平年並みの出荷の見込み。 ・千葉産の出荷が平年並みと見込まれることから、現在平年並みの価格は、引き続き平年並みに推移する見込み。</p>
		137.86	137 (99%)	167 (121%)	182 (132%)	148.04	

注：1 平均価格は、過去5年（平成23～27年）の東京都及び大阪市中央卸売市場の価格。  
2 旬別価格は、上段は東京都中央卸売市場、下段は大阪市中央卸売市場であり、単位は円/kgである。  
3 旬別価格の赤字は、平均価格を150%以上回るもの、背景ありは平均価格を80%を下回るもの（消費税は除く）であるが、必ずしも事業が発動するとは限らないため、あくまで参考である。  
4 入荷量は、東京都及び大阪市中央卸売市場の過去5年平均の数値である。  
5 主産地は、東京都及び大阪市中央卸売市場への出荷の多い県名。（ ）内は入荷シェアで前年実績である。  
6 コメントは、都道府県、出荷団体、都道府県野菜価格安定法人、卸売会社等からの聴き取りをもとに機構が作成したもの。

## 2 野菜の需要動向

家計調査によると、1月の1人当たりの生鮮野菜の購入数量は、4,548g（平年比106%）、購入金額は、1,720円（同102%）となった。  
また、小売物価統計によると、2月のキャベツの小売価格は、137円（過去5年平均比61%）、トマトは808円（同122%）、だいこんは143円（同84%）、ばれいしょは336円（同106%）となり、キャベツ、だいこんが平年を大幅に下回ったものの、トマトは平年を大幅に上回った。

生鮮野菜の購入数量及び購入金額（1人当たりの購入数量と購入金額）

年	過去5年平均		平成27年		平成28年	
	購入数量 (g)	購入金額 (円)	購入数量 (g)	購入金額 (円)	購入数量 (g)	購入金額 (円)
1月	4,299	1,681	4,374	1,755	4,548	1,720
2月	4,515	1,704	4,609	1,761	0	0
3月	4,858	1,845	4,921	1,939	0	0
4月	4,800	1,892	4,693	2,070	0	0
5月	5,097	1,976	4,968	2,257	0	0
6月	5,060	1,952	5,044	2,157	0	0
7月	4,420	1,791	4,353	1,966	0	0
8月	4,315	1,784	4,240	1,998	0	0
9月	4,734	1,909	4,836	2,143	0	0
10月	5,272	1,944	5,400	2,170	0	0
11月	5,115	1,707	5,303	1,809	0	0
12月	5,163	1,948	5,261	1,992	0	0

資料：総務省「家計調査報告（二人以上世帯（農林漁家世帯を除く））」  
注：平年は、過去5年平均（平成23～27年）。

主要野菜の小売価格（東京都区部）

	キャベツ		トマト		だいこん		ばれいしょ	
	平成28年	平年比	平成28年	平年比	平成28年	平年比	平成28年	平年比
1月	125	56	702	103	118	77	310	98
2月	137	61	808	122	143	84	336	106
3月								
4月								
5月								
6月								
7月								
8月								
9月								
10月								
11月								
12月								

資料：総務省「小売物価統計調査報告」  
注：1 平年は過去5年平均（平成23～27年）。  
2 平成28年2月の値は、2月中旬の速報値。

## 3 野菜の輸出入動向

貿易統計によると、1月の野菜の輸入量は、生鮮野菜が、5万2千トン（前年同月比83%）、加工野菜が13万5千トン（同95%）、野菜全体では、18万7千トン（同91%）となった。このうち、中国産野菜合計は10万1千トン（同88%）となった。  
生鮮野菜及び加工野菜で前年を下回ったことから、野菜全体では前年をかなりの程度下回った。  
また、輸出量は、生鮮野菜が、4,008トン（同387%）、加工野菜が、1,610トン（同112%）、野菜全体では5,618トン（同227%）となった。生鮮野菜が前年を大幅に上回ったことから、野菜全体では前年の2倍となる輸出量となった。

野菜の輸入数量

区分	平成26年		平成27年		平成28年1月	
	前年比	前年比	前年比	前年比	前年同月比	前年同月比
生鮮野菜	884,735	104	826,833	93	52,240	83
加工野菜	1,785,487	96	1,752,341	98	134,914	95
野菜合計	2,670,222	99	2,579,175	97	187,155	91
うち中国産野菜合計	1,409,604	100	1,355,497	96	101,043	88
中国産シェア	53		53		54	

主な生鮮野菜の輸入先（平成28年1月）

	合計	1位		2位		3位	
		国名	数量	国名	数量	国名	数量
たまねぎ	15,183	中国	14,579	米国	532	タイ	72
かぼちゃ	12,295	メキシコ	9,881	ニュージーランド	2,414		
にんじん及びかぶ	4,403	中国	4,403				

資料：農畜産業振興機構「ベジ探」(原資料：財務省「貿易統計」)

野菜の輸出数量

区分	平成26年		平成27年		平成28年1月	
	前年比	前年比	前年比	前年比	前年同月比	前年同月比
生鮮野菜	9,429	101	22,924	243	4,008	387
加工野菜	17,061	120	20,506	120	1,610	112
野菜合計	26,490	113	43,429	164	5,618	227

主な生鮮野菜の輸出先（平成28年1月）

	合計	1位		2位		3位	
		国名	数量	国名	数量	国名	数量
たまねぎ及びジャロット	3,209	韓国	2,475	台湾	557	オランダ	120
ながいも等	457	台湾	210	米国	164	シガポール	80
きのこ（その他）	125	台湾	82	香港	21	タイ	14

●問い合わせ先 独立行政法人農畜産業振興機構 野菜需給部 需給業務課 戸田、河原、斎藤、海老沼 TEL03-3583-9448、FAX03-3583-9484 ご意見、ご要望をお寄せください。  
◆「野菜の需給・価格動向レポート」は月2回公表しています。公表時にメルマガでお知らせしますので、ご希望の方はベジ探のトップ画面、メルマガ配信登録・解除ボタンから登録してください。  
★この「野菜の需給・価格動向レポート」は、[http://vegetan.alic.go.jp/vegetable\\_report.html](http://vegetan.alic.go.jp/vegetable_report.html) に掲載しています。  
※無断転載禁止 ・レポートに記載された情報をご利用になったことにより生じたいかなる損害に関して、当機構は一切の責任を負いません。